

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立狭山中学校

1. 本年度の学力・学習状況調査結果の概要について

- ・本校の国語・数学の平均正答率は、いずれの教科・領域においても、全国平均を上回りました。ただ、それぞれの領域の正答率の全国平均との差（本校平均正答率－全国平均正答率）が、国語A・B、数学Bで小さくなっています。
- ・学習に対する意欲に、まだまだ課題が残っており、「勉強が好き」という生徒の割合は僅かですが全国平均を下回っています。
- ・昨年度に比べ、自ら計画的に予習や復習などの家庭学習をしている生徒の割合が随分と改善されました。
- ・考えや意見の発表の仕方や板書の仕方を工夫するなど、授業に参加する姿勢が能動的な生徒が増えています。
- ・「読書が好き」という生徒が7割以上おり、昨年度平均・全国平均より高くなっています。また、平日の読書量が30分以上の生徒も全国平均に比べ多くいますが、ほとんど読書をしない生徒も5割近くいます。
- ・規範意識は、昨年度に比べ改善され、家庭や地域、社会のことに関心を持つ生徒も増えています。

2. 各教科における成果と課題について

	成 果	課 題
国語A 〈主として知識〉	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語についての知識・理解・技能」に関する問題では概ね良好な結果が得られました。 ・“文の成分の照応について理解する”問題の正答率は、全国平均をかなり上回りました。 ・“歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む”問題でも、かなりの成果がみられ、概ね基礎的な読む力・書く力はついています。 ・「資料の活用」についても、よく理解しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」に関する問題では、全国平均を下回りました。自分の考えをまとめたり、内容を整理する力に課題があります。 ・“語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う”問題では、設問の半数以上が全国平均を下回りました。特に、自分の経験外の内容に関する読み書き（“独走”“手塩に掛ける”“合間を縫って”）に課題がみられました。言葉や語句の知識の幅を広げていく必要があります。
国語B 〈主として活用〉	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全ての設問で全国平均を上回っています。 ・「書く能力」に関する問題で良好な結果が得られ、特に“課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える”問題では、全国平均を大きく上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・“本や文章から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く”問題では、全国平均を僅かに下回っています。また、この設問での無解答率が全国平均に比べ高く、ねばり強く文章を読み、考えをまとめる力に大きな課題があります。 ・ほとんどの設問において、無解答率が全国平均より高くなっています。ねばり強く、問題に取り組む姿勢を育てる必要があります。

<p style="text-align: center;">数学 A 〈主として知識〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずれの領域においても全国平均をかなり上回っており、基礎的・基本的な知識や技能については多くの生徒が身につけています。 ・ 「数と式」の領域では、すべての設問で全国平均を上回っており、特に“一元一次方程式の解の意味を理解しているか”をみる問題では全国平均を大きく上回りました。 ・ 「資料の活用」の領域では、すべての設問で全国平均を大きく上回りました。 ・ 「関数」の領域では、一次関数の設問で良好な結果が得られ、特に“一次関数の式から変化の割合を求めることができるか”をみる問題では、全国平均を大きく上回りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「図形」の領域では、課題がみられた設問が何問もありました。全国平均値並みではあるものの、“垂線の作図の方法”に関する設問は、3割の生徒しか正解しておらず、課題であります。
<p style="text-align: center;">数学 B 〈主として活用〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずれの領域においても全国平均を上回りました。また、ほぼ全ての設問で全国平均を上回りました。 ・ “与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるか”“問題場面における考察対象を明確に捉えることができるか”をみる問題では、8割以上の生徒が正しい解答を導くことができました。 ・ 「記述式」のほぼ全設問において、本校平均正答率は全国平均を上回っており、全設問において、無解答率が全国平均より少なく、意欲的に取り組む姿勢がみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ “与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること”を求められた設問は、全国平均を下回りました。 ・ “加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること”“グラフの傾きを事象に即して解釈すること”“与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現すること”を求められた設問では、全国平均を上回る結果が得られたものの、4割以下の生徒しか正解しておらず課題がみられます。

3. 本校の学力向上に関する現在の取り組みについて



全校集会・学年集会

整然と集中して話を聞く姿勢を保ち、皆の前で発表することで表現力を磨く



チャイム着席・授業規律の確立

日々の授業を大切にしています



あいさつ運動・清掃活動

仲間意識や信頼関係の構築



総合学習発表会

クラス・学年の団結、信頼関係の構築
計画性や表現力を高める



漢字テスト・朝読書

毎火曜日恒例の漢字テストで基礎力を、読書で心の平静と熟慮する力を育てます



放課後学習会

チューターの支援のもと、自主学習に取り組んでいます

4. 今後の取組みの方向性について

1. 学力向上に必要な意識を高めるための取組み

学力向上に最も必要なことは生徒の意欲であり、それを支えるのは集団としての生徒の団結、そして生徒と教師の信頼関係です。学校が、学年が、クラスが安心・安全な場所であり、そこで互いに認め合い、支え合う人間関係・信頼関係があつてこそ、生徒の意欲は高まり、学力向上にもつながります。狭山中では、規範意識を高め、団結力をつけ、コミュニケーション力を磨き、充実した人間関係や信頼関係を築くために、「ほめること」や「認めること」を積極的に行うとともに、前ページの写真のような取組みを大切にしています。

2. 学力向上のための取組み

生徒の意欲を形にし、学力向上を図るために、次のような取組みを行っていきます。

- ◎質問や疑問に対して、単に答えを教えたり解説を加えるのではなく、より具体的な解決の手だてを提示したり考えるヒントを提供することで、主体的に解決しようとする姿勢を育てます。
- ◎板書を写すだけでなく、自分の考えをノートに記すように指導することで、思考力や表現力を伸ばします。
- ◎「課題や宿題の提出」について丁寧に指導し、点検・評価をきめ細かく実施することで、個々の能力の把握と改善に努め、家庭学習の充実を図ります。
- ◎数学、英語、国語で実施している少人数習熟度別指導をさらに充実させるとともに、すべての教科において、生徒が主体となって互いに教え合ったり、説明し合ったりできる授業作りを進め、「やればできる」という達成感と「皆が頑張っているから自分も頑張ろう」という連帯感を高める経験をさせ、主体的に学ぶ意欲を高めます。
- ◎定期テスト前にはテスト前質問会を実施し、夏休みや放課後には大学生やボランティア等の学習支援チューターの協力のもと、自習学習を実施していきます。
- ◎生徒が意欲・関心をもつような、わかりやすく楽しい授業、活気のある授業が展開できるように、各教科で授業研究・相互意見交換を行います。また、全教員が参加した形の研究授業を実施し、全教員で相互意見交換を行い、授業力の向上に努めます。
- ◎班活動を重視した取組みが、仲間意識の高揚と表現力の強化につながっています。特に、日々の反省や意見交換など発言する機会を多く設けることで、自分の考えをまとめる力や表現力の向上につなげるよう工夫しています。
- ◎授業のねらいを提示し、小テストや振り返りの時間を設定します。また、めあてや振り返り、重要ポイントの示し方を揃えるなど可能な限りユニバーサルデザインを心がけます。
- ◎プロジェクターやパソコン等のICT機器やデジタル教科書を活用し、授業の工夫や改善に努めます。
- ◎生徒や保護者による授業評価を行い、今後の指導や授業改善に生かします。

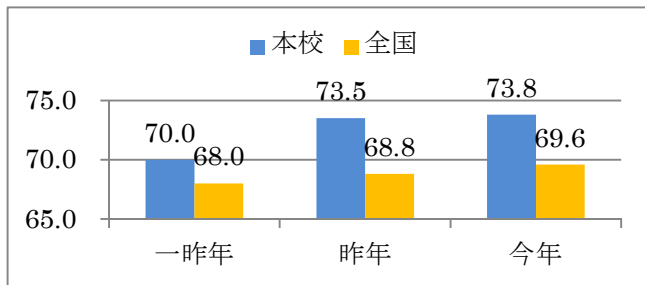
3. 地域・外部人材の活用した取組み

- ◎多様な生徒の意欲を引き出すために、様々な人材や教材を活用します。
- ◎道徳の時間では、「私たちの道徳」や学校作成教材を使い、各教科や行事と関連づけながら、学校・学年・クラスがより安心・安全な場所になるよう、感性、人間性、社会性を磨くような時間にします。
- ◎地域の専門家の方々や図書館司書の方に支援をいただき、学習指導や部活動指導、読書指導の充実を図ります。
- ◎「さやまっ子ティーチャー」を活用し、支援が必要な生徒への働きかけを行っていきます。

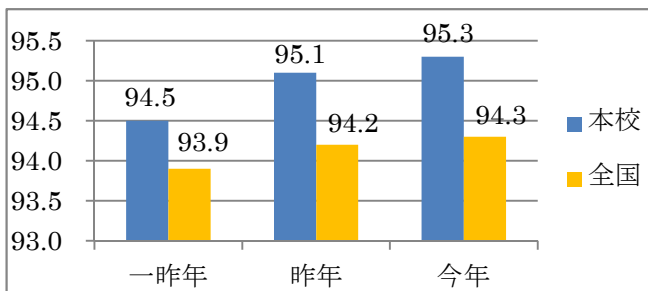
5. 生徒質問紙調査の結果の概要

〈取組みの成果があらわれていたり、特徴的であると思われる事項について〉

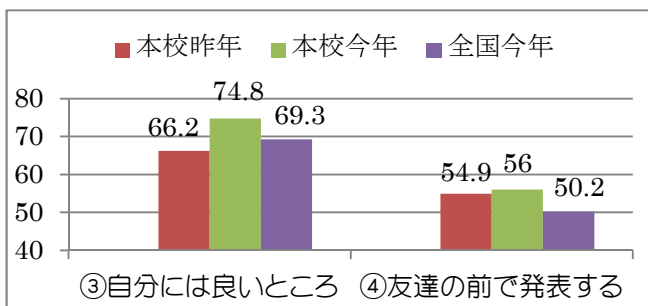
1. 自己肯定感の向上



①「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」



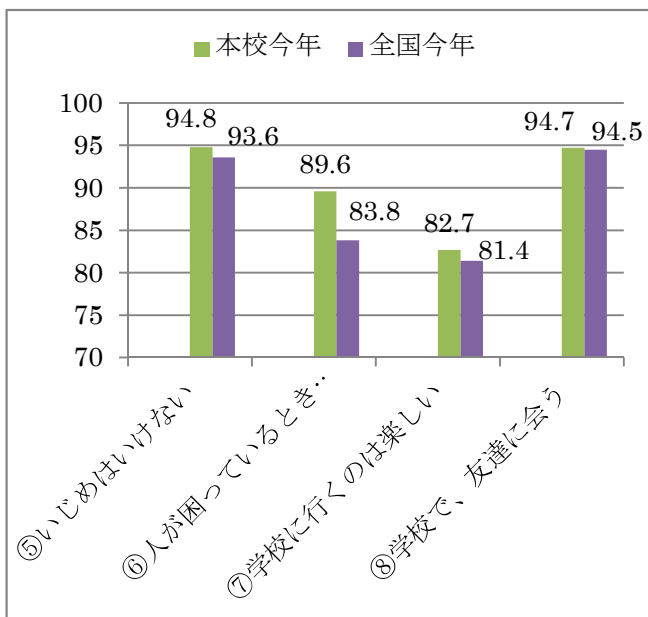
②「ものごとを最後までやり遂げうれしかったこと」



左のグラフ①は「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦するか」、グラフ②は「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあるか」という項目の、「あてはまる、ややあてはまる」の合計%の比較です。本校生徒は、全国比、昨年比・一昨年比とも上回っています。いろんな事に粘り強く取り組み、達成感を味わった経験を持つ生徒が多く、その結果、「自分にはよいところがある」と思っている生徒が、初めて全国比を上回る74.8%(グラフ③)になり、「将来の夢や目標を持っている」という生徒70.1%と合わせ、自己肯定感を持つ生徒の増加が顕著になってきています。また、友達の前で自分の考えや意見を発表するのが得意な生徒の割合(グラフ④)が、今年は56.0%まで増加し、全国比を5.8%も上回るなど、積極的に活動的な生徒が育っています。

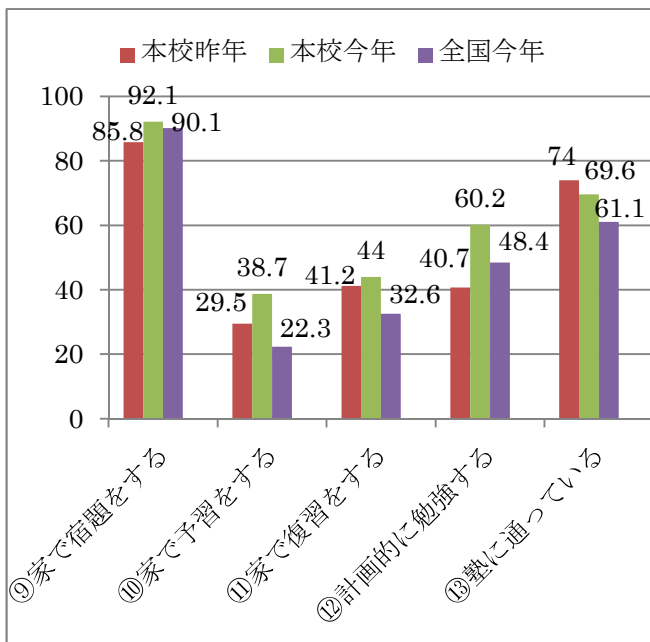
さらに、今年度、地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある生徒の割合が、昨年より15%近く増加しており、ボランティア活動への参加経験者の増加も合わせて考えると、幅広い知識を身につけ、世の中に貢献したいという生徒も育ってきていると思われます。

2. 仲間意識等と授業規律



左のグラフ⑤～⑧は、「⑤いじめは、いけないこと」「⑥人が困っているときは、進んで助ける」「⑦学校に行くのが楽しい」「⑧友達と会うのは楽しい」という項目の、「あてはまる、ややあてはまる」の合計%の比較です。本校生徒は、それぞれ全国比を上回っています。これらの結果より、本校の生徒は仲間意識が強く、互いの存在を大切にしている様子が窺えます。例年、これらの内容は、多くの生徒が支持しており、学校やクラスが、生徒にとっての安心で、安全な場になっていることが想像でき、このことが授業規律の確立に大きく影響していると考えています。

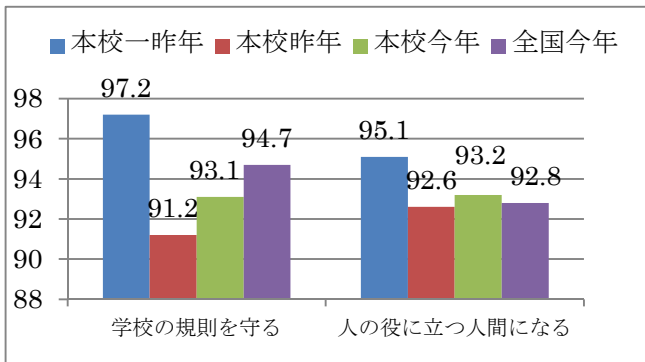
3. 学習に対する意識



左のグラフ⑨～⑬は、「⑨家で、宿題をする生徒」「⑩家で、授業の予習をする」「⑪家で、授業の復習をする」「⑫家で、自分で計画を立てて勉強している」「⑬塾で勉強をしている」生徒の割合を示しています。本校生徒は、全国比、昨年比ともほぼ上回っており、学習に対する意識が高いことがわかります。特に、「自分で計画を立てて勉強している」生徒が増加したこと、また、「教科で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つ」と考えている生徒は、国語 87.4%、数学 68.0%で、学習内容が将来の自分のために必要であるという意識を持って、授業に参加している生徒がたくさんいることがわかります。

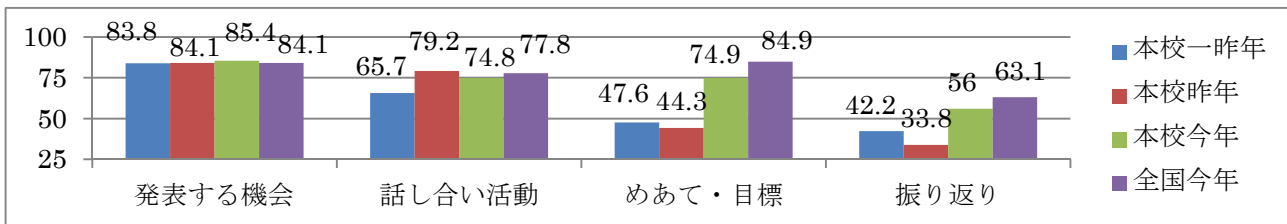
＜今後に向けて、課題と思われる事項について＞

1. 自己肯定感の向上



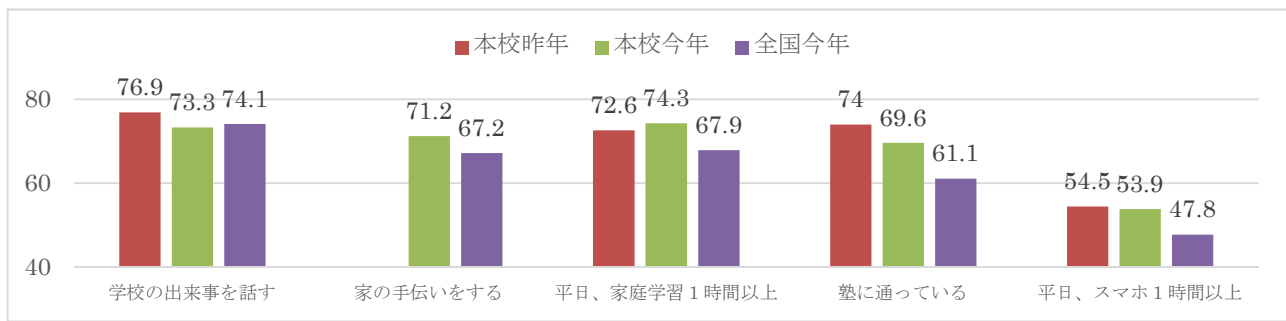
昨年度低下した、「学校の規則を守る」「人の役に立つ人間になりたい」という意識を持つ生徒の割合は、やや回復したもののまだまだ十分ではありません。規範意識や社会に貢献しようとする意思の有無は、すべての教育活動の成果と密接な関係があり、社会形成者としても必要な要因であると考えています。より一層、道徳教育にも力を注いでいきます。

2. 授業に関して



学力は、国語・数学のすべての領域において良好です。しかし、両教科において、「教科の勉強が好き」「教科の勉強が大切」という生徒の割合が、ほとんど全国平均を下回っています。その一因として考えられるのが、上のグラフに示されている部分です。前年度に比べ、かなり改善されたものの、全国平均より低く、まだまだ課題だと考えます。授業の中で、自分の考えを話したり、まとめたり、発表をする場面が不十分で、授業形態がプロセスより結果を重視する形に陥っているのではないかと考えられます。一層、授業のめあてを示し、しっかりと振り返りを行うという、授業の流れを統一し、より生徒が意欲的に参加し、主体的に活動できる授業形態への改善を、さらに推し進めていく必要があると考えています。

3. 生活習慣・学習習慣に関して



家の人に、学校の出来事話す生徒が73.3%、家の手伝いをする生徒が71.2%おり、家族との関係が良好な生徒が多いことがみてとれます。家庭学習では、74.3%もの生徒が1時間以上勉強しており、前述した通り、宿題をきちんとする生徒が92.1%、自分で計画を立てて学習している生徒が60.2%おり、家庭学習の習慣はついています。ただ、7割近くの生徒が塾に通っており、全国平均を上回っています。家庭学習は、まだまだ宿題と塾が中心という実態があります。また、「早寝・早起き・朝ご飯」に関する課題も依然としてあります。平日、夜遅くまで、塾通い、音楽やゲーム、スマートフォンでの友達とのやり取りをしている状況で、起床時間や朝食に影響を及ぼし、生活習慣が損なわれるという悪循環に陥っている生徒もいると考えられます。さらに、宿題をあまりしない生徒(7.9%)や休日、家庭学習を全くしない生徒(12%)の割合が昨年より増加しています。学力の二極化の顕著な例であり、対策を講じていく必要があります。

6. 保護者・生徒のみなさんへ

○生徒の皆さんにしっかりと取組んでほしいこと

- ①早寝・早起き、朝ご飯など規則正しい生活を心がけ、体調管理に気を配ろう。
- ②安心・安全な学年・クラスで生活することで、授業へ取り組む雰囲気良くなります。違いを認め合い、共に高め合う集団をつくるよう、協力しよう。
- ③互いの信頼を深めるため、しっかりあいさつをし、きちんと清掃活動に取り組もう。
- ④学習内容を正しく理解するために、授業に集中し、積極的に参加しよう(考えよう、自分の考えをまとめよう、発言しよう、耳を傾けよう)。
- ⑤家庭学習を計画的に進められる人が少ないです。計画的に、予習・復習などの準備を十分にした上で、授業にのぞもう。
- ⑥読書習慣が乏しい人や新聞を読まない人がかなり多い実態があります。本や新聞を読むことで、読解力がつきます。本や新聞に親しみ、読書の習慣をつけよう。

○保護者のみなさまに協力していただきたいこと

- ①早寝早起き、朝ご飯、あいさつなど規則正しい生活を心がけるよう、ご指導ください。
- ②自尊意識や自己肯定感、意欲向上のため、よい面は積極的にほめるよう、お願いします。
- ③授業により前向きに参加するため、予習・復習など、家庭での計画的な学習習慣をつけるよう、ご指導ください。
- ④授業内容をより理解できるようにするため、宿題や提出物はきちんと出すよう、ご指導ください。
- ⑤家族で会話する時間を大切にし、可能な限り行事等への参加をお願いします。